

## 臨床指標(クリニカル・インディケーター)について

臨床指標(クリニカル・インディケーター)とは、医療の質を具体的な数値として表したもので、指標ごとに規定された算定定義がそれぞれ異なります。

当院ではこれまで「DPC データによる病院指標」をホームページ上に公開していましたが、それとは別に経営面と診療面に関する指標(日本医療機能評価機構推奨)を選定し、ここに公開することになりました。ここに示された数値から当院の現状を把握するとともに、患者さんが安心して診療を受けることができるよう、医療の質向上を目指していきたいと考えています。

また、今後は順次、公開する指標を増やしていくことも考えております。

### (目次)

- ①-1 入院患者数・新入院患者数・平均在院日数(全病棟) : P2
- ①-2 入院患者数・新入院患者数・平均在院日数(急性期病棟) : P3
- ② d 2(真皮までの損傷)以上の新規褥瘡発生率 : P4
- ③ 入院患者で転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血が発生した件数 : P5
- ④ 退院後 4 週間以内の計画外再入院率 : P6
- ⑤ 24 時間以内の計画外再手術率 : P7
- ⑥ 術後の肺塞栓発生率 : P8
- ⑦ 入院患者のパス適用率 : P9
- ⑧ 急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率 : P10
- ⑨ 人工膝関節全置換術患者の早期リハビリテーション開始率 : P11
- ⑩ 退院後 2 週間以内のサマリー作成率 : P12
- ⑪ 救急車による救急患者受入数 : P13
- ⑫-1 身体拘束実施率 : P14
- ⑫-2 身体拘束解除率 : P15

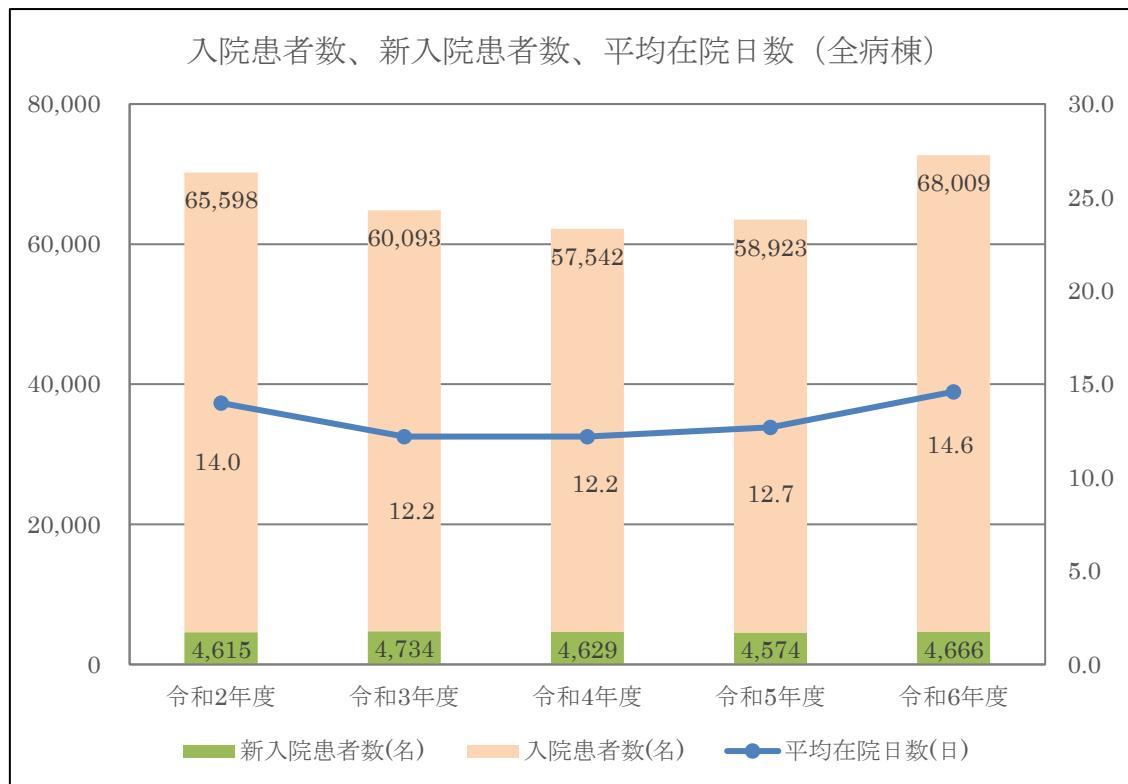
## ①-1 入院患者数・新入院患者数・平均在院日数(全病棟)

### ①指標について

当院では急性期病棟の他に緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟、及び回復期リハビリテーション病棟を有しています。当指標では全病棟分と急性期病棟分のみとを区分して算出しています。令和2年度～令和5年度の途中まで、急性期病棟の一部、回復期リハビリテーション病棟が新型コロナウイルス感染症の受け入れ病棟として機能している時期がありました。また、令和5年6月より4東病棟(43床)が休床となっていますが、ここでは、許可病床としての病床数を表示しています。

(緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟、及び回復期リハビリ病棟を含む全病棟の数値)

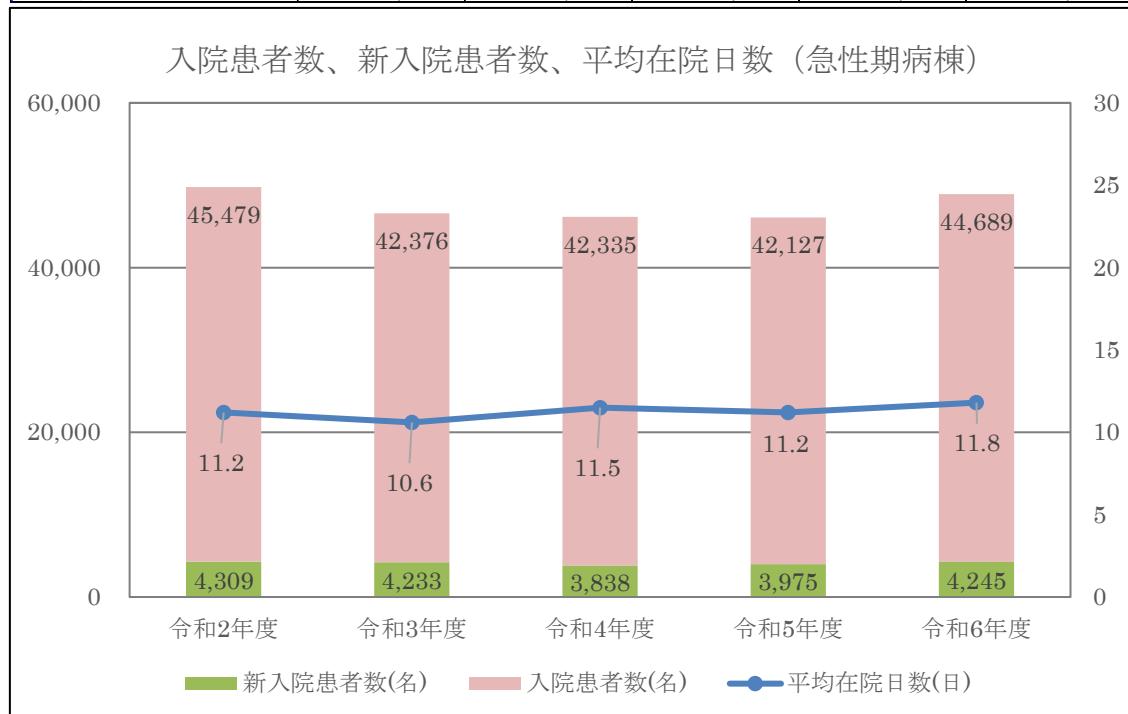
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病床数(全病床)	305	305	305	305	305
平均在院日数(日)	14.0	12.2	12.2	12.7	14.6
入院患者数(名)	65,598	60,093	57,542	58,923	68,009
新入院患者数(名)	4,615	4,734	4,629	4,574	4,666



## ①-2 入院患者数・新入院患者数・平均在院日数(急性期病棟)

(緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟、及び回復期リハビリ病棟を除く急性期病棟のみの数値)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病床数(急性期病床)	206	206	206	206	206
平均在院日数(日)	11.2	10.6	11.5	11.2	11.8
入院患者数(名)	45,479	42,376	42,335	42,127	44,689
新入院患者数(名)	4,309	4,233	3,838	3,975	4,245



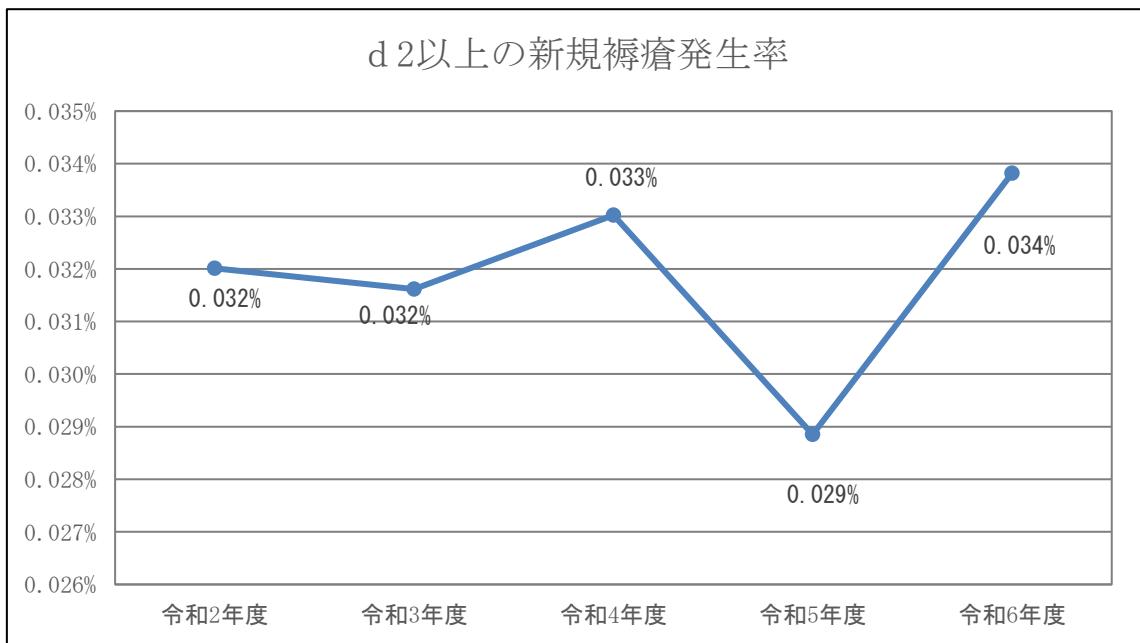
## ②d2(真皮までの損傷)以上の新規褥瘡発生率

### ②指標について

入院患者さんが入院後に d2(真皮までの損傷)以上の褥瘡を発症した件数を示す指標です。褥瘡(床ずれ)は寝たきりや、麻痺等により車椅子生活をしている患者さんにできやすい圧迫とそれが原因で発生する皮膚損傷です。褥瘡は患者さんの QOL(生活の質)低下をきたすとともに感染を引き起こす等、治療が長期に及ぶことによって入院期間の長期化や医療費の増大にも繋がります。当院では医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、管理栄養士、理学療法士等、他職種から構成される褥瘡対策チームと看護部褥瘡防止委員会が中心となり、ケアを通して褥瘡発生防止に努めています。褥瘡発生率も低い発生率を維持しています。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
d 2以上の新規褥瘡発生数(分子)	21	19	19	17	23
延入院患者数(分母)	65,598	60,093	57,542	58,923	68,009
d 2以上の新規褥瘡発生率	0.032%	0.032%	0.033%	0.029%	0.034%

レベル	患者の状態
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔、対腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

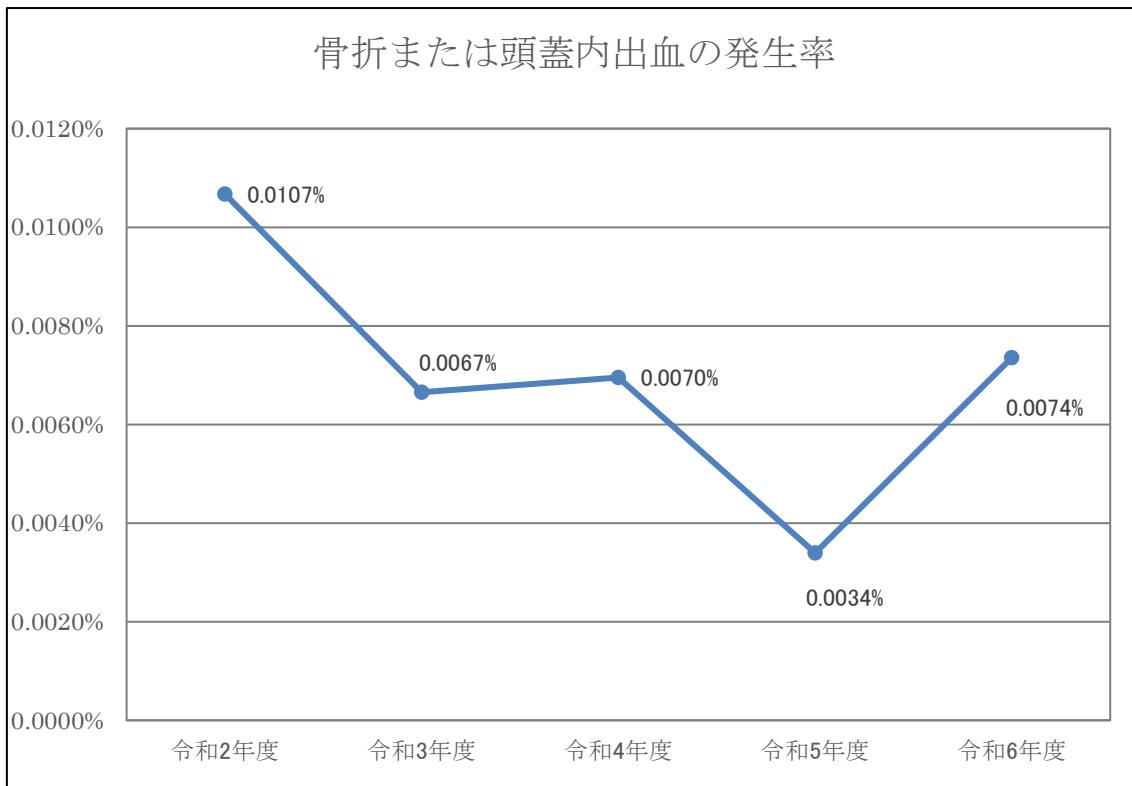


### ③入院患者で転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血が発生した件数

#### ③指標について

入院患者さんが転倒・転落された件数を示す指標です。入院中の患者さんの転倒やベッドからの転落は少なくはありません。原因としては、入院環境の変化や疾患に起因するもの、治療・手術等による身体面や認知力の低下及びせん妄等、様々なものがあります。骨折や頭部打撲による頭蓋内出血が発生すると、生活の質(QOL)の低下や回復遅延にて入院期間延長となります。当指標は、患者さんに障害が発生した損傷発生率と障害に至らなかつた発生率の両者を指標とすることに意味があります。両者の発生件数と事例分析をすることで、要因を特定し予防策を実施し、リスクを低減していく取組みが障害予防に繋がります。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
骨折または頭蓋内出血の発生件数(分子)	7	4	4	2	5
延入院患者数(分母)	65,598	60,093	57,542	58,923	68,009
骨折または頭蓋内出血の発生率	0.0107%	0.0067%	0.0070%	0.0034%	0.0074%

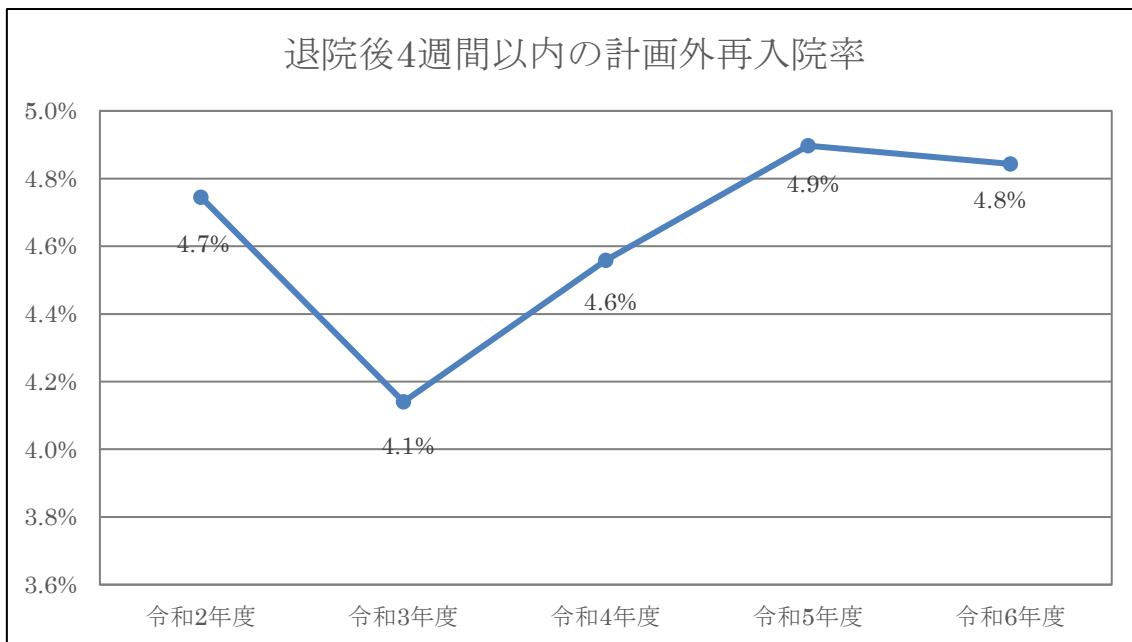


## ④退院後 4 週間以内の計画外再入院率

### ④指標について

当院を一度退院した患者さんがその後 4 週間以内に計画的な予定入院ではなく、予期せぬ再入院となった割合を示す指標です。当指標が高くなる要因の 1 つには、前回入院時の治療内容が十分ではなかったという場合が考えられます。この場合には当指標は低い方が望ましいと言われています。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
再入院理由に計画外再入院を選択した患者数(分子)	219	196	211	224	226
全入院患者数(分母)	4,615	4,734	4,629	4,574	4,666
退院後4週間以内の計画外再入院率	4.7%	4.1%	4.6%	4.9%	4.8%

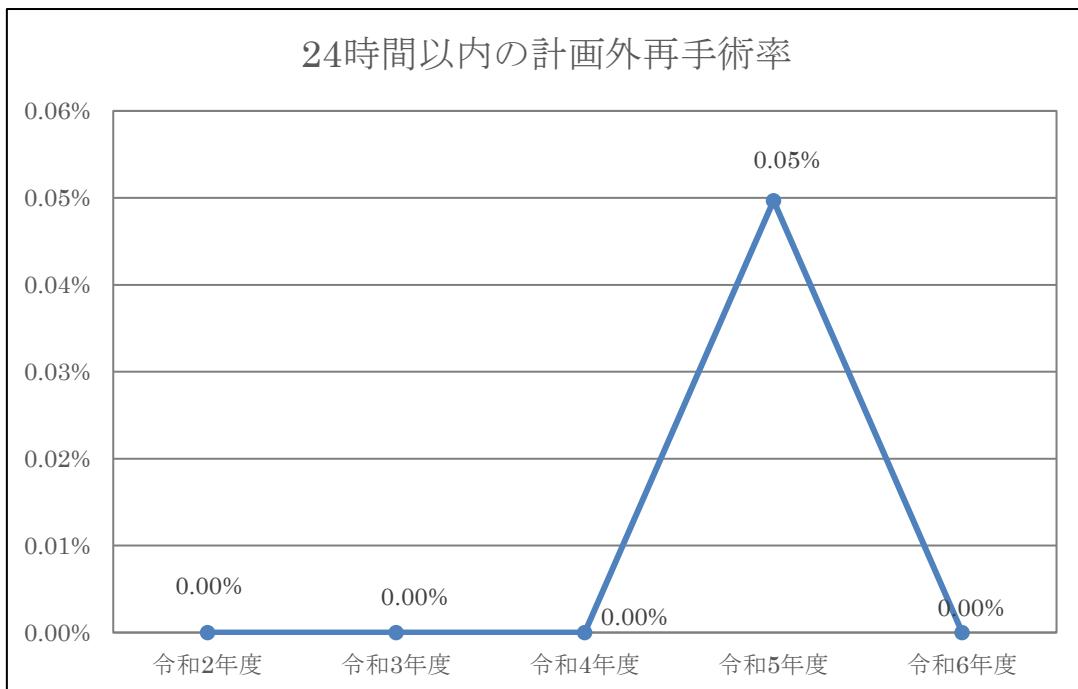


## ⑤24時間以内の計画外再手術率

### ⑤指標について

入院患者さんに対して、手術後 24 時間以内に同部位の再手術を施行(同一術式とは限らない)した割合を示す指標です。ここでの再手術件数、及び再手術率は手術室で行われた手術に関するデータとなっています。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予定外の再手術件数(分子)	0	0	0	1	0
総手術件数(分母)	1,691	1,800	1,938	2,013	1,981
24時間以内の再手術率	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%	0.00%

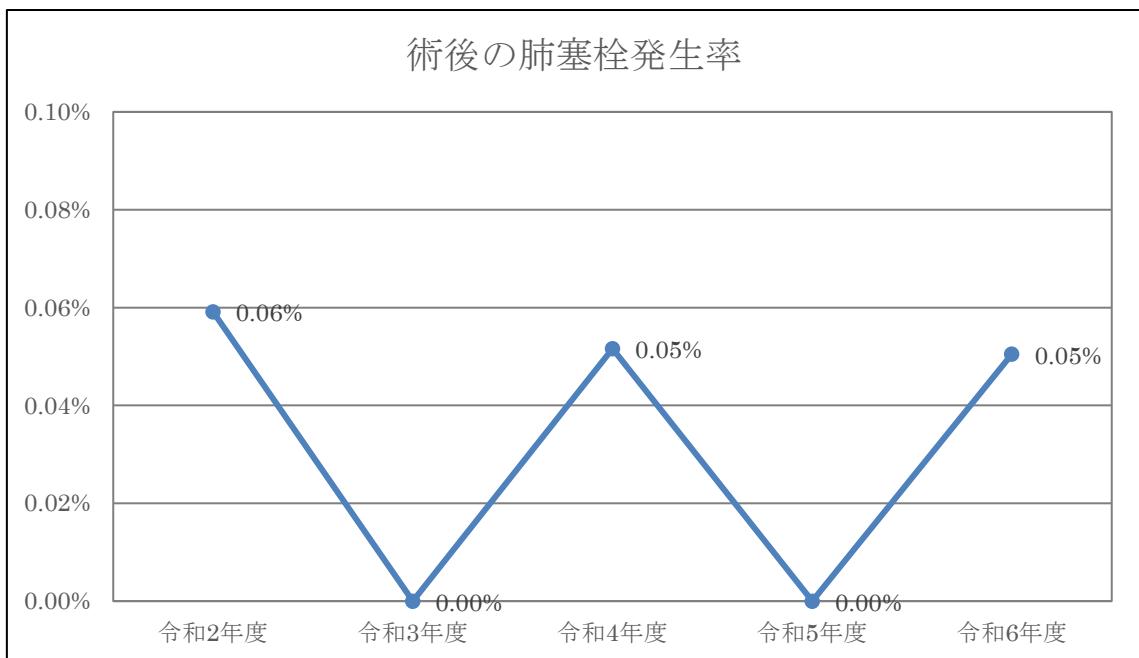


## ⑥術後の肺塞栓発生率

### ⑥指標について

入院患者さんに対して、手術後肺塞栓症を併発した割合を示す指標です。肺塞栓症とは術後の安静や長期臥位により血液の巡りが悪化し、下肢静脈に血栓(血液の固まり)が出来上がり、それが血液の流れに乗って肺の血管まで運ばれ、詰まってしまう疾患です。予防法が確立され適切な処置に発症を予防することが可能ですが。発症率が低い場合には、入院中の肺塞栓症予防に積極的に取り組んでいると評価できます。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
術後の肺塞栓発生件数(分子)	1	0	1	0	1
総手術件数(分母)	1,691	1,800	1,938	2,013	1,981
術後の肺塞栓発生率	0.06%	0.00%	0.05%	0.00%	0.05%

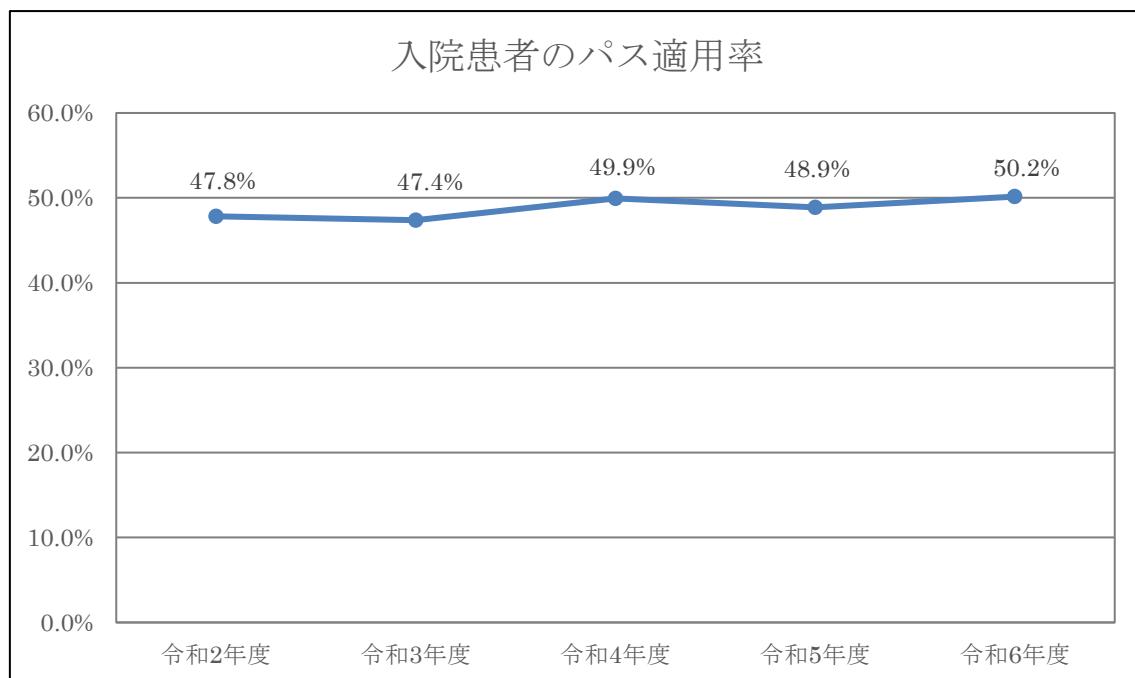


## ⑦入院患者のパス適用率

### ⑦指標について

入院患者さんに対して、クリニカルパスが適用された割合を示す指標です。クリニカルパスとは疾患別に患者さんの入院から検査、手術、退院までのタイムスケジュールをまとめたものです。このスケジュール表は入院前に患者さんに渡しておきます。(予定外入院における骨折パス等を除く)従って、患者さんが入院から退院までどんな順序で治療が行われるかを予め知ることができ、安心感を与えるものにもなります。また医療の標準化や、平均在院日数の短縮化、及びバリアンス集計(パス逸脱率)の分析にも貢献します。令和2年度～令和6年度では50%程度で推移しています。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
パス適用入院患者数(分子)	2,227	2,230	2,337	2,213	2,323
全退院患者数(分母)	4,656	4,707	4,681	4,527	4,632
入院患者のパス適用率	47.8%	47.4%	49.9%	48.9%	50.2%

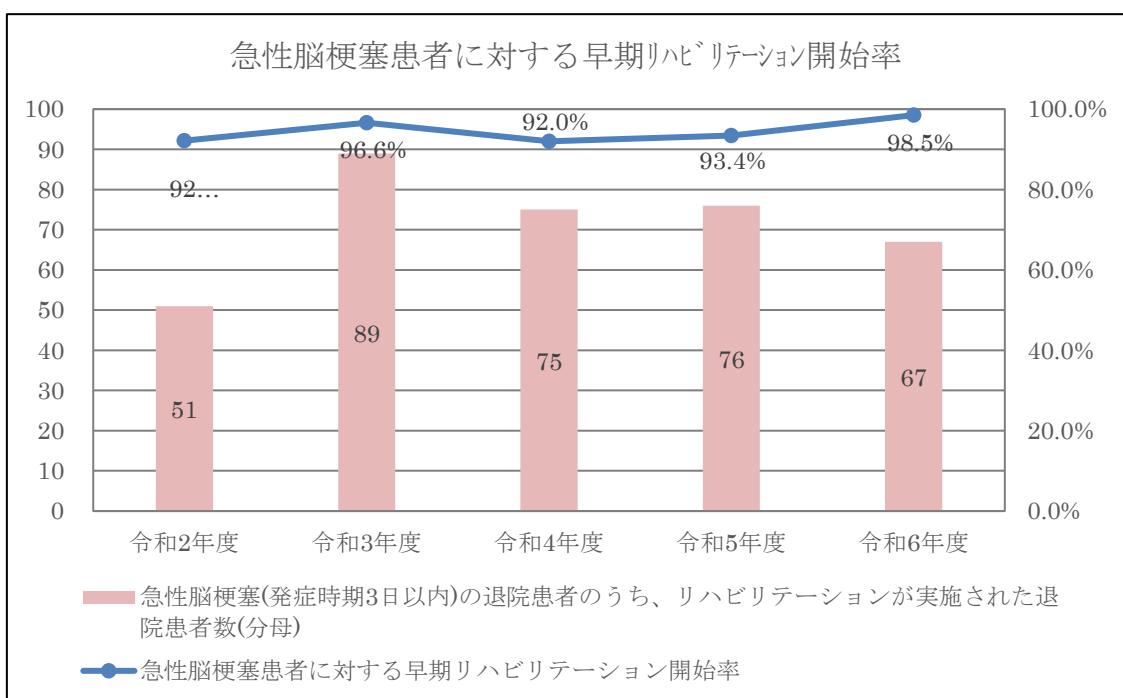


## ⑧急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率

### ⑧指標について

急性脳梗塞の発症した入院患者さんに対して、入院後4日以内にリハビリテーションが開始された割合を示す指標です。脳梗塞を発症すると、筋力低下や運動麻痺による手足拘縮、または褥瘡等の廃用症候群を起こしやすくなります。これらをしっかり予防し、早期のADL(日常生活動作)向上や社会復帰を図るために十分なリスク管理のもと、早期リハビリテーションを行うことが必要になってきます。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
分母のうち、入院から4日以内にリハビリテーションが開始された患者数(分子)	47	86	69	71	66
急性脳梗塞(発症時期3日以内)の退院患者のうち、リハビリテーションが実施された退院患者数(分母)	51	89	75	76	67
急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率	92.2%	96.6%	92.0%	93.4%	98.5%

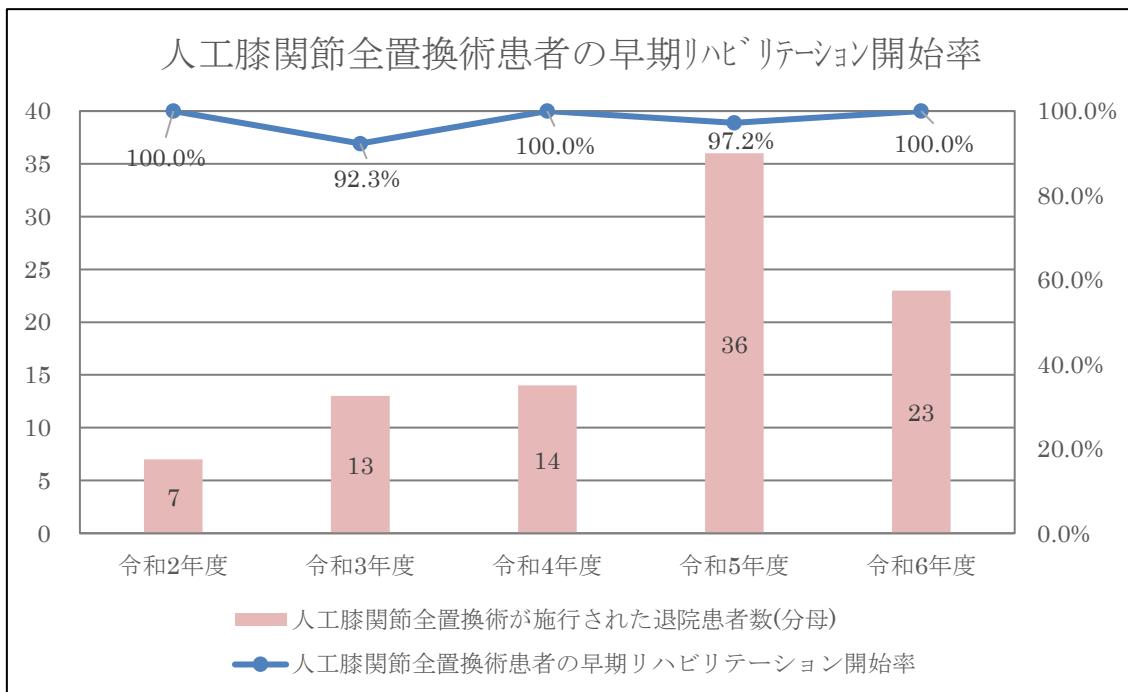


## ⑨人工膝関節全置換術患者の早期リハビリテーション開始率

### ⑨指標について

人工膝関節全置換術が施行された入院患者さんのうち、術後4日以内にリハビリテーションが開始された割合を示す指標です。当手術施行後の早い段階でリハビリテーションを開始することで、廃用症候群や深部静脈血栓症等の合併症を予防するとともに、関節可動域の改善や歩行能力の回復も早まり、その後のADL(日常生活動作)が改善されることになります。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
分母のうち、術後4日以内にリハビリテーションが開始された患者数(分子)	7	12	14	35	23
人工膝関節全置換術が施行された退院患者数(分母)	7	13	14	36	23
人工膝関節全置換術患者の早期リハビリテーション開始率	100.0%	92.3%	100.0%	97.2%	100.0%



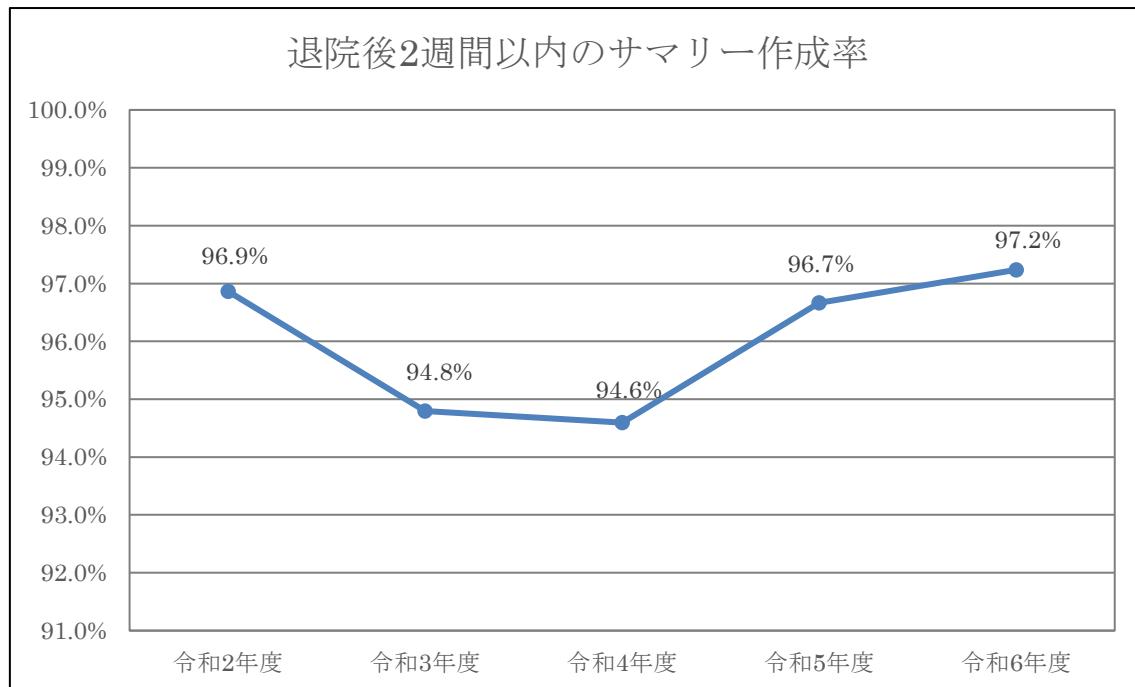
## ⑩退院後2週間以内のサマリー作成率

### ⑩指標について

退院サマリーとは、入院経過や検査所見など入院中の治療内容を簡潔にまとめたものであり、退院後速やかに作成されることが重要です。当院は「診療録管理体制加算2」を算定していますが、これは診療記録が適切に管理されていることを評価した加算で、退院後2週間以内のサマリー作成率が90%以上であることが要件となっています。

当院では、すべての入院患者さんの退院サマリーが退院後2週間以内に作成されることを目指しています。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
退院後2週間以内のサマリー作成数(分子)	4,510	4,462	4,428	4,376	4,504
全退院患者数(分母)	4,656	4,707	4,681	4,527	4,632
退院後2週間以内のサマリー作成率	96.9%	94.8%	94.6%	96.7%	97.2%

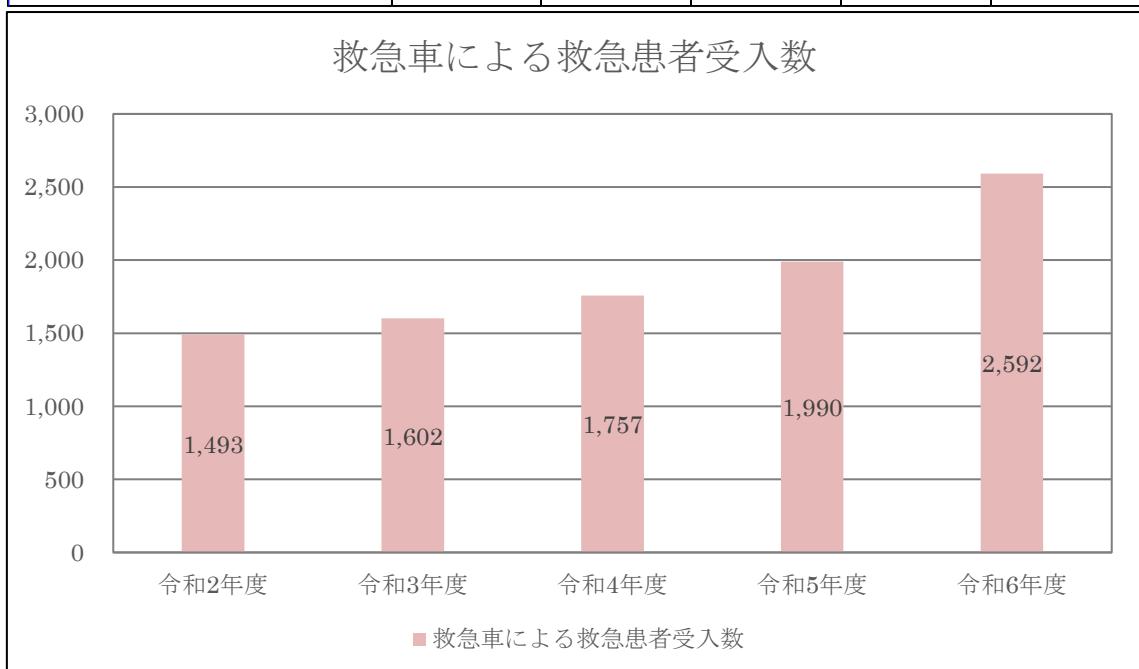


## ⑪救急車による救急患者受入数

### ⑪指標について

救急車による救急患者受入数は、どれだけの救急車の受け入れが出来たかを示す指標で、各病院の救急診療を評価する指標となります。地域医療への貢献を示す指標にもなります。当院は東京都指定二次救急医療機関として地域の救急医療に取り組んでいます。救急車による救急患者受入数は、年度ごとに増加しており、令和6年度には2,000件を超えました。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
救急車による救急患者受入数	1,493	1,602	1,757	1,990	2,592



## ⑫-1 身体拘束実施率

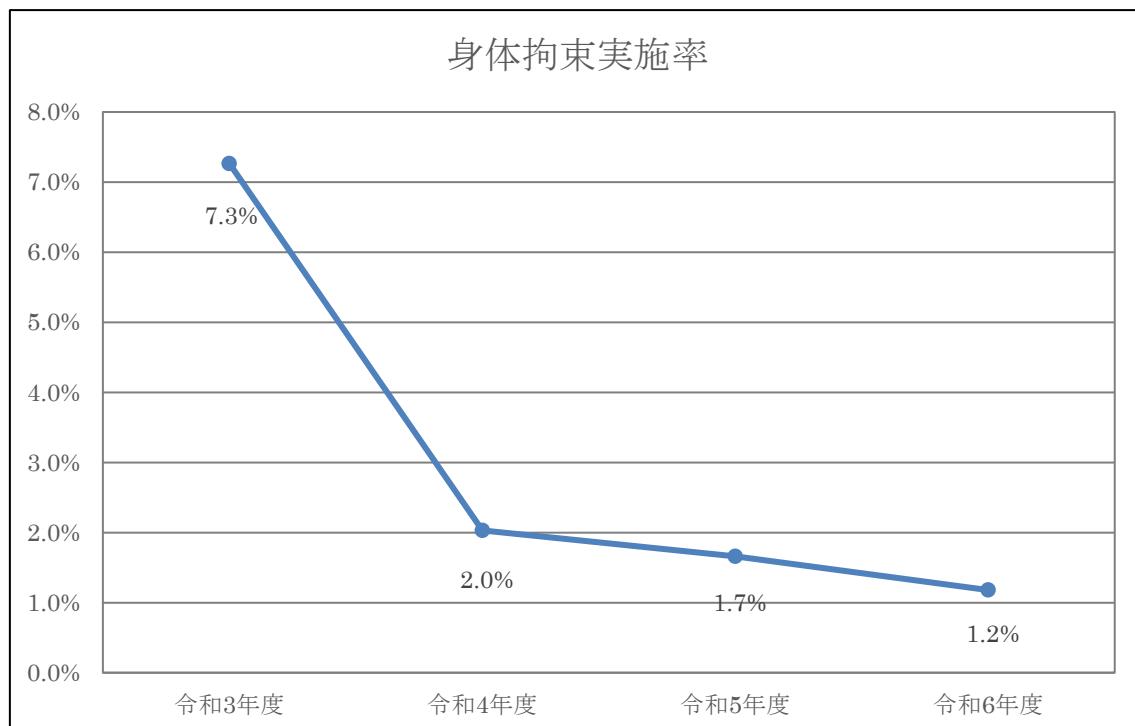
### ⑫指標について

身体拘束とは、患者の身体または衣服に触れる用具を使用して、一時的に患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動制限を指します。当院では、身体拘束をしないための具体的なケアを追及しつつ不要な身体拘束をしないために、十分な査定と患者理解を行い、根拠に基づいた安全で効果的な最小限の身体拘束を実施しています。

また、令和2年6月より身体拘束検討委員会を発足し、身体拘束を最小化する取り組みを行っております。

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
身体拘束実施日数(分子)	4,366	1,169	977	802
入院患者延べ数(分母)	60,093	57,542	58,923	68,009
身体拘束実施率	7.3%	2.0%	1.7%	1.2%

※令和2年度は年度途中の集計開始のため、令和3年度データより公開



## ⑫-2 身体拘束解除率

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
身体拘束解除数(分子)	247	96	97	90
身体拘束実施日数(分母)	4,366	1,169	977	802
身体拘束解除率	5.7%	8.2%	9.9%	11.2%

※令和2年度は年度途中の集計開始のため、令和3年度データより公開

